

# 町内会活動のこれから

～その手があったか！新たな「気づき」～

## 開催報告書



いギなすげえ！



### 当日のプログラム

**第1部 話題提供**  
14:05~14:35  
「これからの時代の多様な町内会運営」  
放送大学教養学部教授  
**玉野 和志 氏**

**第2部 活動事例発表**  
14:35~15:05  
仙台市内で、様々な工夫を凝らした活動を行っている町内会に活動事例を発表いただき、学び合いの機会としました。  
**発表団体**  
①市名坂東町内会  
②福寿町内会  
③千代田町町内会

**第3部 情報交換**  
15:10~15:40  
「担い手発掘・育成」「デジタル技術活用」「活動の見える化・見直し」をテーマとして、それぞれに関心のあるグループごとに情報交換を行いました。

開催日 令和6年1月14日(日)

時間 14:00~16:00

会場 せんだいメディアテーク 1階オープンスクエア  
仙台市青葉区春日町2-1

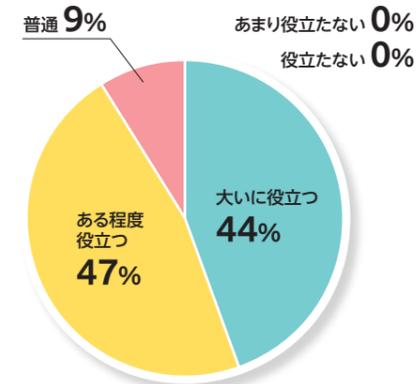
主催：仙台市 後援：仙台市連合町内会長会

## 玉野 和志氏 総括

事例発表や質疑応答で、町内会の皆さまがすでにさまざまな挑戦をしていることを聞くことができ、とても頼もしく感じました。コロナ禍が明け、対面での交流も大切にしたいという声がありました。大事なものは、普段の負担を減らして、その分、交流できるときはしっかり交流していくことだと感じています。それぞれの状況に合わせて、多様な活動を継続していただきたいと思います。

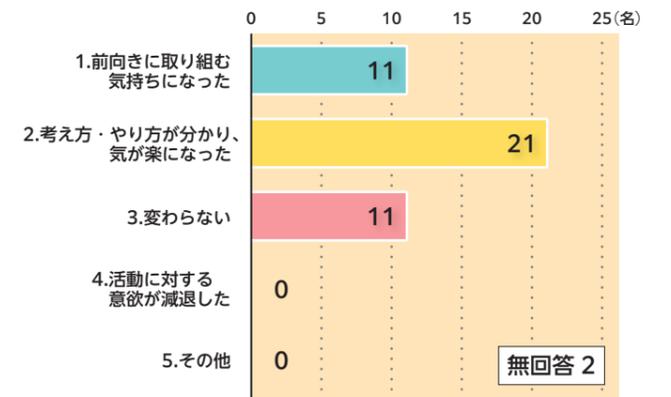
## アンケート (回答者:45名)

### 今後の町内会活動に役立つと思いますか？



- 各町内会の悩み事や実際の活動内容について大変勉強になった。
- 負担軽減や後継者問題など共通の悩みがあり参考になった。
- 大変なのは私だけじゃ無い！ とにかく励みになりました。

### 町内会活動に関する考え方はどのように変化しましたか？



- 自分の町内会に合った組織のあり方や運営見直しを進めていけたら良いと分かった。
- 自分だけではなく「みんなで!」「楽しく!」。工夫の仕方でも負担軽減できる。
- 町内会の数だけ手法は千差万別。工夫しながら良いものは取り入れ活動していきたい。

## 参加者のご意見・ご感想

- LINEがこんなに使われているとは思わなかった。
- 同じ悩みやデジタル技術への意欲が感じられ、今後の励みにしたい。
- 町内会活動のうち、どの部分をデジタル化すべきなのか検討をする必要がある。
- デジタルに関する知識・経験は個人差があるため、町内会内で基本的なスキルアップを図ることが大切だと感じた。
- 役員も参加者も楽しいイベントを行うことで担い手発掘に繋がることが分かった。
- 若い世代や女性役員の活躍の幅を広げるため、今回の情報交換会の内容を参考にし検討していきたい。



お問い合わせ

仙台市民局 市民活躍推進部 地域政策課  
TEL.022-214-6129 FAX.022-214-6140 E-mail.sim004070@city.sendai.jp

情報交換会に関する情報や当日の活動事例発表資料はホームページからご覧いただけます。

URL [https://www.city.sendai.jp/chiiikisaku-kikaku/kurashi/manabu/chiiikatsudo/chonaikai/tayoustyle/tayou\\_style2.html](https://www.city.sendai.jp/chiiikisaku-kikaku/kurashi/manabu/chiiikatsudo/chonaikai/tayoustyle/tayou_style2.html)

当日の動画も  
ご覧いただけ  
ます!!

## これからの時代の 多様な町内会運営

放送大学教養学部教授 **たまの かずし 玉野 和志氏**

石川県金沢市生まれ。東京都老人総合研究所、流通経済大学、東京都立大学を経て、放送大学社会と産業コース教授。専攻は都市社会学・地域社会学。自治会・町内会や市民活動団体などを中心とした地域社会の調査研究にもとづき、コミュニティ政策や住民自治に関する研究に従事。主な著作に、「東京のローカル・コミュニティ」、「実践社会調査入門」などがある。



### 未来を見据え、運営をどう考えるべきか

現在、町内会は、高齢化に伴う担い手不足に悩まされています。特に関東圏などの都市部においては、ここ数年間で町内会加入率が60%程度まで下がっている地域もあります。仙台市は令和5年6月1日時点で74%と比較的高い水準を保っていますが、今後、町内会活動を継続していくために、どのような未来を描けばいいか考えていく必要があります。

高齢化や人手不足などで町内会の力が弱まっていくと、これまで行ってきた地域の会合への参加などが難しくなったり、地域の行事や清掃活動などの維持が困難となったりします。これらを解決するためには若い世代の加入率を上げる必要がありますが、町内会に入るのが当たり前、町内会で役目を果たするのが当たり前、という価値観は若い世代には通用しなくなりました。「町内会に入るメリットは何ですか？」という発想です。町内会の意義やメリットをあらためて捉えなおし、可能であればお知らせなどで見える化し、説明することが大切です。町内会活動を負担と感じるレベルは、年代や世代によって異なることを意識して活動する必要があります。

### これからの町内会運営に求められること

このように、町内会は若い世代にとって「当たり前」の活動ではなくなってきています。かつては若い世代に子どもが生まれると、学校のPTAなどをきっかけとしてやる気のある方が地域に関わるようになるという流れがありました。子どもの数が減り、そもそもPTAを解散したりする事例も出てきています。これまでのように親世代の活動に期待するのではなく、思い切って、中学生・高校生の力を活用することも一つの手段です。

さらに、町内会活動は負担ではない、と思ってもらえるような体制をとれるようにすることも重要です。「ご近所づきあいもあるし、これくらいなら大丈夫だね」と思える程度に留めておき、負担に感じないように分担するというのも手です。いざやってみると、人とのつながりができて意外と楽しい、地域にもっと関わってみたい、と思える人も出てくるでしょう。

また、コロナ禍をきっかけとして、SNSなどのデジタルツールが普及しています。よくある話だと、回覧板を紙ではなくLINEで回してほしいなどの要望も出てきています。若い世代には歓迎されるデジタルツールの導入ですが、年配の役員の方からすると負担に感じる部分もあるでしょう。そうであれば、この際、デジタル活用についてを若い世代にお任せすることも手法のひとつです。ある地域では、高校生にSNSの運用をお任せしたところ、それをきっかけに中高生が活動に参加してくれるようになったという例もあります。

### 高齢化と担い手不足に備えて

町内会の真のメリットは、加入者が減った現状であっても、市民の半分以上が属している組織であるということです。これは世界的にも類を見ない組織です。災害などの際にも町内会が代表して行政と協力しながら問題を解決していくことができます。

そう考えると、まずは「人が集まっている」状態をつくるのがとても重要になります。加入者が減っているのであれば負担を減らし、普段から楽しく活動できるようにすることで、いざという時にまとまって活動することができます。

負担を減らすというと、活動自体をやめたり縮小したりしないといけないかと思われるでしょうが、例えば地域のサークルや団体に活動の一部をお願いするのも良いでしょう。サークルや団体に所属する方は誰かと関わりを持ちたくて参加している場合が多いため親和性もありますし、町内会に見守られながら活動できるようになるので、いざという時は町内会に頼れば良いという流れも生まれます。町内会に力のあるうちは、全部自分たちでやろうとしがちですが、お任せすることも一つの手段です。よく知っているだけでも、役員の方々は気が楽になるのではないかと思います。

このように、町内会はその地域の特性や事情によって多種多様な運営スタイルがあってしかるべきです。高齢化が進み、担い手不足が顕在化した時のことを見据え、今のうちからさまざまな可能性について考え、備えておく必要があります。

### 市名坂東町内会

会長 **くさ 貴子氏**

#### 「お互いさまの助け合い」～役員生活スタイルに合わせた無理のない柔軟な町内会運営～

市名坂東地区は現役世代が多い地域です。「できる人でやりましょう」と声掛けし、平成20年に結成しました。現在9名の役員は全員女性です。常に全員が参加するのは難しいため、役員会の時間を60分以内にしたたり、欠席者から委任状を集めず会長に一任する方法を取ったりするなど、意思決定をスリムにし、無理のない柔軟な運営を行っています。東日本大震災後には、子育て世代の要望を受けて、子育て支援活動「ずんだっこ」を始め、年1,500名が利用してくれる取り組みになりました。新しい風を取り入れることは町内会の継続に不可欠です。これからも多様な意見を取り入れ、活動を行っていきたくて考えています。

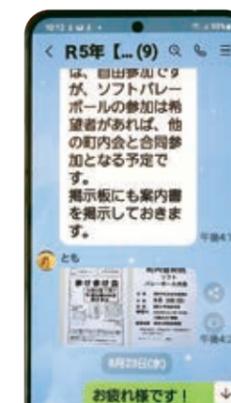


### 福寿町内会

会長 **こばやし まさあき 小林 正明氏**

#### 活動の「見える化」を実施～LINEを活用し、負担軽減へ～

「町内会でどんな活動をしているか知りたい」という声をきっかけに、活動の「見える化」を実施しています。まずは総会資料を分かりやすく作り直し、さらに役員と理事の業務活動大綱を作成しました。これは、年間の取り組みを分かりやすくするとともに、お互いの役割を明確にし、負担軽減につなげる効果がありました。また、併せて役員、理事のLINEグループを作成したことで、意見交換の機会が増え、活動の改善を図りやすくなったと感じています。引き続き、若い方や高校生などの意見も取り入れながら、住みやすい地域づくりを行って参ります。



### 千代田町町内会

副会長 **きとう せつこ 佐藤 節子氏**、副会長 **ごとう ちよこ 後藤 千恵子氏**

#### お任せするの一手！～Win-Winの関係で省力化を図る～

会員の高齢化に伴い、市政だより等広報物の配布活動が難しくなり、就労継続支援B型事業所「杜の工房」の利用者さんに集合住宅への配布をお願いすることとしました。実施前には地域の皆さんに向けた事前説明を実施。実際に運営する際も、配布者は緑色のビブスを着用する、LINEグループをつくり柔軟な対応ができるようにするなど工夫を重ねています。「杜の工房」の利用者さんからは、地域の方と関わる機会ができ、モチベーションアップにつながったという声をいただいています。活動の一つをお任せすることでWin-Winの関係を築くことができました。

